

# ごみの分け方 出し方 シリーズ

VOL.3

## 燃えないごみの 出し方

燃えないごみは、月1回の収集日の朝8時まで所定の集積所に出してください。燃えないごみとして集積所に出せるものは、30cm未満のものです。ガラス・せものなどが割れている場合は、新聞紙などで包んで出してください。なお、30cm以上のものは粗大ごみとなりますので粗大ごみ予約専用電話で申し込んでください。

### 燃えないごみとして出せないもの

スプレー缶は、穴を開けて空き缶、空きびんの日に出してください。注射器、針などの産業廃棄物、タイヤ、バッテリーなど(収集日程表参照)は市で処理できませんので、購入したお店が専門処理業者に引き取ってもらうようお願いいたします。

### 本年度から蛍光管などの分別収集を開始しています

蛍光管・体温計などは購入時の紙ケースに入れるなど破損しないようにして、燃えないごみのわきに置いてください。

粗大ごみ予約専用電話番号53-2832  
受付時間(月曜日から金曜日)

8:30~11:30、13:00~15:30

※祝祭日の予約受付は行いません

問い合わせ清掃業務課(清掃センター)へ ☎53-2831

# 自分でできる減量作戦

リサイクルなんて「私にはできない」などとお思いのかた。できることから始めてみませんか。日常生活の中から積極的にリサイクルに取り組んでいるかたがたにお知恵を拝借しました。ぜひ参考にしてください。

ゴミにしない工夫は日常生活の中になくさんあります。少しづつ残った物の組み合わせで作れるお料理。冷蔵庫の中がきれいになって一石二鳥。買い物は袋を持って行く。衝動買いはしない。衣類、家具など再利用できる物は近所を声かけ合う。新聞雑誌は、自治会の集団回収へ。トレー、牛乳パックはスーパーの資源回収箱へ。天ぷら油廃油は石けんへ。

私が考えたのは、なるべく手間をかけないこと、毎日のことですからあまり頑張ろうとしないことです。家ではゴミ箱の横に紙袋を置いて、紙はその中に入れてます。子供にもできて手間もかかりません。それからティッシュやペーパーは再製紙を買っています。この2点をお勧めします。ほとんどの紙がリサイクルできること、集団回収の他に市でも古紙の回収(回収月)を月1回行っていることなどをもっとたくさんの人に知ってほしいと思います。

物がなかった時代はゴミが出なかったのに、今はありすぎてゴミになる。でも、ちょっと意識することでゴミは減る。びん・缶・紙類(菓子箱やレシートも)、衣類などは資源に。家具や電化製品などは本当に使用不可能なのか、修理はできないのかと考えると、持ちよ、物との別れに心がける。燃やすごみの半分を占める生ゴミは、容器に入れEMぼかしやコンポストで保管すれば、立派なたい肥になる。家庭から出るゴミの大半は資源として再利用できるのです。



北入曾 中込千賀子さん



下奥富 細田律子さん



東三ツ木 吉村容子さん

ゴミにしないあれこれ

できることから

物との別れを大切に

### ●問い合わせ●

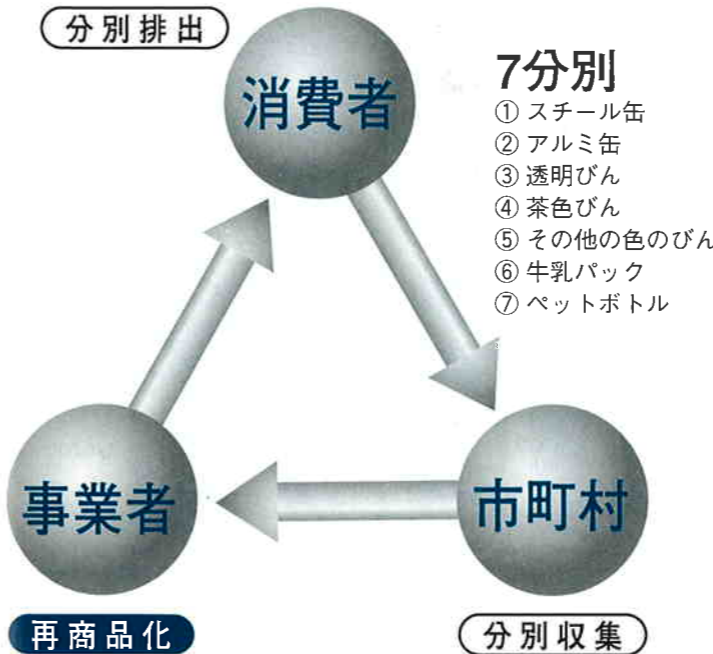
□清掃総務課内線 6 4 4 □清掃業務課(清掃センター) ☎ 5 3 - 2 8 3 1  
□リサイクルセンター ☎ 5 3 - 4 7 0 4 へ

# 「五味」しませんか

特集

消費者・市町村・事業者が一体となった新たなリサイクルシステムいよいよ開始

ごみの減量と資源を有効利用するため、消費者・市町村・事業者がそれぞれの役割を担う新たなリサイクルシステムをつくることを目的に、平成7年6月に「容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律(容器包装リサイクル法)」が成立、平成9年4月からスタートします。この法律により新たにペットボトルの回収や一部の事業者にも再商品化の義務が課せられることとなります。



## 人も地球家族の一員

その物の持つ一つだけの目的が終わったからといって、これはごみなんだと決めつけてはいませんか。日ごろから、家の中にはくずかごがあり、何げなく書き損じた便せんや商品の包装紙などを丸めて捨ててしまいがちです。着られなくなった洋服、あなたはどうしていますか。捨ててしまわずに、再生すれば、もう一度生活のなかで役立つ「物」に返るのです。ごみのように思えるものでも、りっぱな資源です。このように、ごみ

分別収集を実施し、大きな成果をあげていますが、今後、市民・市・事業者が一体となった新たな取り組みをめざしていこうとしています。

というものは、私たちの意識のなかから生みだされてくるのです。「ごみは発生源で絶つ事が最も大切なこと。次に減らすこと。繰り返し使うこと。再生資源に戻すこと。」これは、ドイツの人たちがみんな意識している、いわばことわざのような言葉です。この意識を日本でも、狭山市でも、実行してみませんか。ごみの減量は、単にごみを減らすことだけが目的ではありません。その行動自体が、土や水や空気など地球の呼吸を整え、人間が地球家族の一員として末長く健康で暮らすしていくための基礎となるのです。皆さんとともに環境にやさしい取り組みを実践し、すてきな地球家族の一員になりましょう。

## 地球にやさしい「リサイクル都市」をめざして！

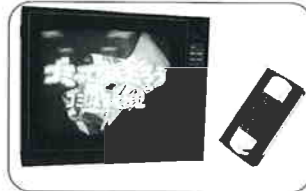


清掃総務課 ごみ減量担当主幹 横田 秀雄

私たちが住んでいるこの地球は、いつまで生物の住むことができる豊かな青い星でいられるのでしょうか。今を生きる私たちが、限りある資源を消費し続けることによって、近い将来の地球の姿が容易に想像されます。

次の世代に良好な環境を引き継ぐ責任者として、緑の森きれいな空気、おいしい水、人にやさしい社会を取り戻すため、身の回りのできることから始めませんか。狭山市では、地球にやさしいリサイクル都市をめざし、市民・企業・行政が一体となって、ごみの減量化、資源化、リサイクル化に取り組むための計画を進めています。何げなく捨ててしまった「ごみ」でも、大切な地球の資源です。もう一度、ごみのことを考えてみてください。

### 「ゴミ」ってなんだろう



ビデオテープをお貸しします

2人の主婦が、ゴミを通じて知り合い、ゴミとして出されていた紙や生ゴミを分別し、資源として利用することにより、ゴミを減量していくようすを紹介しています。清掃総務課や各出張所、公民館、児童館、図書館などの公共施設にて貸し出しをしています。ぜひ、ご覧になってください。(VHS 手話入り。18分)